

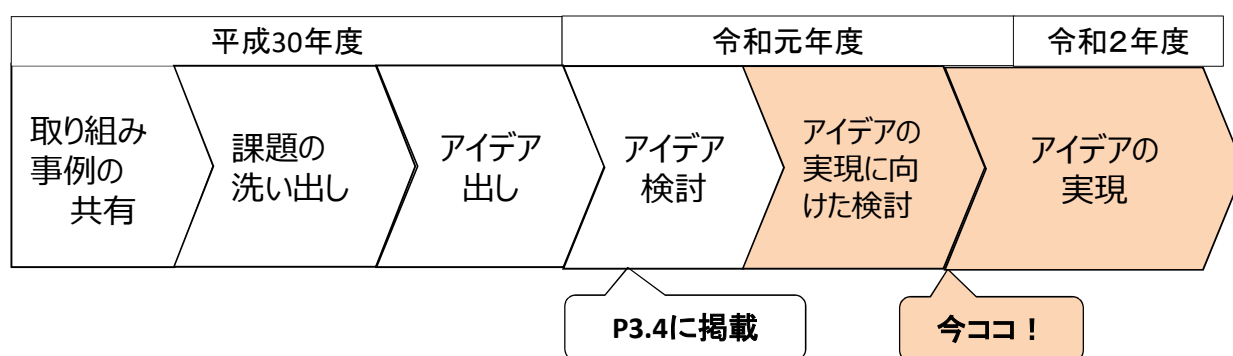
支え合いの輪を広げよう！

～アイデア実現に向けた西区自治協議会の取り組み～

西区自治協議会では、平成30年豪雪をきっかけに、区民等と市の「協働の要」である、自治協議会として何ができるか、話し合いを続けてきました。

話し合いの中で、さまざまな地域の課題を解決するには**支え合いが大切**ということに改めて気づき、**支え合いの輪を広げるアイデアの実現**に向けて取り組んでいます。

これまでの歩み



アイデア実現に向けた取り組み

委員から出されたアイデアの実現に向けた取り組みを紹介します。

アイデア実現その1 令和2年度自治協提案事業で実施へ

アイデア「住民同士であいさつや声掛けがスムーズに行えるよう標語を考えるまたは募集する。標語は看板にして設置する」



「令和2年度西区自治協提案事業」で、支え合いの大切さを広める標語等の募集について、第2部会を中心に具体的な検討を進めています。



アイデア実現その2 自治協広報紙で発信

アイデア「自治協広報紙を活用して雪の降る季節になったら、『車のなかにスコップ、麻袋を入れておく』等呼びかけを行う。」「12月15日発行の自治協広報紙で特集記事を書く」



自治協広報紙「西区を豊かに」（12/15発行）に掲載

〔地域で取り組みそうなこと〕

- ・子ども会、老人会、地域の茶の間などを通して、日常的に多世代交流ができるよう横のつながりを持つ。
- ・自治会の会議（班会議等）で話し合い、いざという時の対策を取り決める。

〔降雪時に個人でできそうなこと〕

- ・自分の家の前だけでなく、歩道など共有スペースも除雪してみる。
- ・車に、雪落とし用のスコップとスリップ対策の麻袋を積んでおく。



アイデア実現その3 地域盛り上げ隊のテーマに「支え合い」

アイデア「特色ある区づくり事業『出勤！西区地域盛り上げ隊』で『支え合い』を課題解決に向けた話し合いのテーマに取り入れる」



10月9日に小新中学校の3年生と、坂井輪小・小新小学校区まちづくり協議会など地域の皆さんで、「小新が支え合いのある地域になるために中学生ができること」をテーマに話し合いを行いました。



西区自治協議会は、これらのアイデア実現をはじめ、さまざまな地域課題の解決に向けて取り組んでいきます。

参考資料：令和元年度「支え合いの取り組み（降雪時等）の輪を広げるためのアイデア実現に向けて」～グループワークで出たアイデア

支え合いの取り組みの輪を広げるために、自治協として取り組みそうなことや地域等で取り組みそうなことを8月の本会で自由に話し合いました。



○自治協で取り組みそうなこと

[イチ押し]

- ・ 住民同士であいさつや声掛けがスムーズに行えるよう標語を考えるまたは募集する、標語は看板にして設置する。
- ・ 自治会長同士がメールでやり取りを行い、情報交換ができないか。すぐには難しいが、（自治会やコミ協内や自治協委員間で）メール等で情報共有を行い地域内の連絡体制を確立する。将来的にはSNSを活用することも出来るのではないか。
- ・ 特色ある区づくり事業「出動！西区地域盛り上げ隊」で「支え合い」を課題解決に向けた話し合いのテーマに取り入れ、中学生の発想を実現する。

（時間はかかるが頑張りたいこと）さらに、将来的に中学校の中に「ボランティア隊」の結成をはかる。

[すぐできること]

- ・ 自治協広報紙を活用して雪の降る季節になったら、「車のなかにスコップ、麻袋を入れておく」等呼びかけを行う。
- ・ 例えばプライバシーに触れない範囲で、各自治会の住民の状況調査（困難者はいないかどうか等）の実施モデルを提案し、各自治会等に広めていってはどうか。
- ・ 12月15日発行の自治協広報紙で特集記事を書き、2年後には自治協で出たアイデアをまとめた冊子を作り、各自治会へ配る。
- ・ キャンペーン（呼び掛け）実施（例：自分の家＋αで地域の除雪、休日一斉雪かき日の設定、ひとかき運動等）
- ・ 除雪グッズ売り場に「歩道やゴミ捨て場でも雪かきをしよう」といったパンフレットやチラシを設置する。
- ・ 雪かきの動作を取り入れた体操（トレーニング）を取り入れ、楽しく取り組むことを広める。
- ・ スタンプカードを活用して（雪かきを）やった人に達成感を与えると次回以降の動機づけにつながるのではないか。

[時間はかかるが頑張りたいこと]

- ・ 地域の状況把握を踏まえたうえで情報発信、共有したい（除雪が必要な箇所のマップを作る。学校で西区の災害や祭り等を学べる副教材を作る。地域の取り組み等の情報を共有できるポータルサイト（電子掲示板）を作る。）

○地域等で取り組みそうなこと

【イチ押し】

- ・民生委員から地域の人に声掛けをしてもらい、困難者（除雪に限らず様々な支援が必要な方）を探す。自治協と協力することでスムーズに行えるのではないかな。
- ・子ども会、老人会、地域の茶の間を通して、日常的に多世代交流ができるよう横のつながりを持つ。

【すぐできること】

- ・自治会の会議（班会議等）で話し合い、いざという時の対策を取り決める。
- ・実際の事例（除雪がうまくいっている地域もある）を共有し、各自治会や班等で対応。
- ・自治会・町内会単位で、除雪の協力体制（外部委託）を整える。
- ・自治会で「地域のお助け隊」を結成してはどうか。
- ・小中学生の登校時の通学路確保のお手伝いを地域できないか。多世代で取り組むことが必要と感じる。

【時間はかかるが頑張りたいこと】

- ・中学校と連携し、生徒に地域でやってみたいこと、できることを考え、実行してもらおう。

【その他】

- ・回覧板等で高齢者世代等が困っていることを記入してもらい現状を把握する。
- ・小中学生に「お助け隊(支え合いのグループ)」の意義を伝え、小学生高学年や中学生に自治会の活動にも参加してもらい、世代交流の輪を作る。また、一緒に活動できるようなグループ（青年団）をつくる。
- ・向こう三軒両隣の声かけ運動により、年1回、班ごとに顔合わせを行い、知り合う。
- ・除雪など支え合いの活動に必要な人材を、地域の中で確保しておく。ボランティアの登録、向こう三軒両隣でメンバーを決めておくなど共助組織を作る。
- ・日頃から、地域の状況把握をしておくために、地域の茶の間やラジオ体操等によって、世代間交流をはかる場を設け、日常的に「顔の見える」関係を作る。
- ・公園清掃と避難訓練を組み合わせるなど、楽しみながら参加できるイベントにより関係づくりをする。

